

平成14年3月29日

各位

株式会社 UFJホールディングス  
(コード番号 8307)

平成14年3月期業績予想および連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社が昨年11月22日の中間決算発表時に公表した平成14年3月期の業績予想および連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成14年3月期(平成13年4月2日～平成14年3月31日)業績予想

(単位:億円、%)

	営業収益	経常利益	当期利益
前回予想 (平成13年11月)	1,560	1,450	1,450
今回予想 (前回予想額対比)	850 ( 710 )	750 ( 700 )	750 ( 700 )
増減率	45.5	48.3	48.3

【修正の理由】

前回予想時には、理論上の上限額を予想計数としていた子会社(株式会社UFJ銀行)からの受取中間配当金額が確定したこと(別紙1.ご参照)を主因とし、営業収益、経常利益、当期利益とも前回予想比減少いたしました。

2. 平成14年3月期(平成13年4月1日～平成14年3月31日)連結業績予想

(単位:億円、%)

	経常収益	経常利益	当期利益
前回予想 (平成13年11月)	26,000	9,000	6,000
今回予想 (前回予想額対比)	30,000 ( 4,000 )	16,000 ( 7,000 )	12,000 ( 6,000 )
増減率	15.4	77.8	100.0

【修正の理由】

本年1月15日に合併し消滅した子会社(株式会社東海銀行)の合併日前期間損益(平成13年4月1日～平成14年1月14日)の連結決算上の取扱いを変更したこと(別紙2.ご参照)を主因とし、経常利益、当期利益が前回予想比減少いたしました。  
なお、前回予想と同じベースで算出した場合、連結業績予想は以下【ご参考】のとおりとなり、経常利益および当期利益は当初予想比増加いたします。

【ご参考】当初予想と同じベースで算出した場合の連結業績予想

(単位:億円)

	経常収益	経常利益	当期利益
当初予想と同じベース で算出した今回予想 (当初予想額対比)	24,000 ( 2,000 )	8,500 ( 500 )	5,000 ( 1,000 )

(\*) 旧東海銀行の合併日前期間損益を連結業績に含めないベースでの予想

なお、現時点では不良債権処理額等について、次のように見込んでおります。  
不良債権処理額は、旧東海銀行の合併日前処理分を含め当初見込どおりグループ全体で約2兆円になると予想しております。  
当期末の当社連結自己資本比率は、約2兆円の不良債権処理後でも、10%台後半となる見込みです。  
また、UFJ銀行は、当期末約5000億円の剰余金を確保し、その他有価証券評価差額金も税効果勘案後で1200億円程度の差益を維持できる見込みです。  
(詳しくは別紙ご参照)

以上

## 1. 子会社（UFJ銀行）からの中間配当について

今年度よりその他有価証券に時価評価が適用され、その評価差額が資本直入されることになったため、年度末の株価動向によっては評価差額金が大きく変動し、期末配当金の原資となる剰余金金額に影響を与える可能性が生じることとなりました。

このため、中間配当を実施した場合、年度末の株価動向によっては違法配当の危険性を負うこととなります。

こういった危険性をできるだけ回避するため、UFJ銀行は、中間配当基準日を9月末日から12月末日へ変更し、中間配当を3月末日までに実施する旨定款に定めております。

昨年11月に発表した当社の業績予想作成段階では、上記理由により、子会社であるUFJ銀行からの受取配当金は確定しておらず、理論上の上限金額を用いて当社の業績予想計数を作成しておりました。

本日、当社は、UFJ銀行において同行の財務健全性を維持しつつ、当社における配当等の原資として必要な金額を確保するという考えに基づき決定された総額740億円の中間配当を受領いたしましたので、これに伴い当社業績予想を修正いたしました。

（ご参考）UFJ銀行の中間配当額が確定したことにより、中間配当金額を理論上の上限金額を用いて算出していた旧三和銀行の当中間期末（平成13年9月末）自己資本比率は次のとおり上昇することとなりました。

〔連結〕11.14%（前回公表：10.72%） 〔単体〕12.19%（前回公表：11.76%）

なお、UFJ銀行の中間配当は旧三和銀行の平成13年3月期末時点の剰余金のみを源泉としているため、旧東海銀行の自己資本比率に変更はありません。

## 2. 旧東海銀行の合併日前期間損益の連結決算上の取扱いについて

UFJ銀行の決算においては、合併会計の考え方にに基づき、消滅会社である旧東海銀行の合併日前期間損益（平成13年4月1日～平成14年1月14日）は、UFJ銀行の期間損益としては認識されず、純資産額のみがUFJ銀行に引き継がれます。

このため、昨年11月の連結業績予想発表段階では、連結決算上もUFJ銀行の合併会計を準用し、旧東海銀行の合併日前期間損益を含めずに連結業績予想をたて、旧東海銀行の合併日前期間損益については必要な注記にて開示する方法を前提としていました。

しかしながら、旧東海銀行の合併日前期間損益を連結業績に含めず注記にて開示する方法は当社グループ全体の損益状況がわかりにくいという難点があるため、旧東海銀行の合併日前期間損益を連結業績に含めた総額を当社グループの期間損益として表示する方法に変更することいたしました。

この結果、当社連結業績予想は当初予想値から大幅な減少となりましたが、前回予想と同様に旧東海銀行の合併日前期間損益を含めない方法を採用した場合、連結業績予想は、経常利益が8500億円、当期利益が5000億円と、当初予想比それぞれ500億円、1000億円の増益となります。

なお、いずれの方法によった場合でも、連結純資産額は変わりません。

ご参考

(1) 連結業績予想の概要

(単位：億円)

	子会社単体合算計数			
	UFJ銀行 (*1)	旧東海銀行 (*2)	UFJ 信託銀行	合計
<実態> 実質業務純益 (*3)	4,900	1,392	1,200	7,492
合併に伴って処理した 債券個別ヘッジ損失		450		450
実質業務純益 (*3)	4,900	942	1,200	7,042
株式関連損益	650	1,496	1,050	1,896
うち株式等償却	1,500	1,777	1,150	4,427
不良債権処理額 (*4)	10,650	6,846	2,050	19,546
経常利益	5,500	7,661	1,950	15,111
当期利益	2,850	7,129	1,250	11,229
当社単体および銀行連結対象会社利益等				770
当社連結当期利益	= +			12,000

- ( \*1 ) 三和銀行と東海銀行が合併して誕生したUFJ銀行の通期の見込計数  
平成13年4月1日～平成14年1月14日の旧三和銀行（合併後存続会社）と平成14年1月15日～同年3月31日のUFJ銀行の合計
- ( \*2 ) 合併前の旧東海銀行の期間損益（実績）  
平成13年4月1日～平成14年1月14日の旧東海銀行（合併時消滅会社）の計数
- ( \*3 ) 一般貸倒引当金繰入前業務純益
- ( \*4 ) 一般貸倒引当金繰入額を含む

【解説】

実質業務純益

子会社3行合算（子会社単体合算計数）の実質業務純益は、実態ベース（<実態>実質業務純益）で約7500億円と見込んでおります。

ただし、UFJ銀行の合併に先立ち、損失処理を加速するとの考えから、旧東海銀行決算時（平成14年1月14日）において債券個別ヘッジの含み損450億円を処理した結果、3行合算の実質業務純益は7042億円と予想しております。

株式等償却

3行合算で4427億円と見込んでおります。（このほか、UFJ銀行合併時に処理した含み損1452億円もあり、実質的には5880億円の処理を実施すると見込まれます）

不良債権処理額

3行合算で概ね当初予想どおりの約1兆9500億円となるものと見込んでおります。

当期利益（3行合算）

旧東海銀行において決算上否認した税効果部分があったため、同行の当期損失が大幅に拡大し7129億円となったことを主因とし、3行合算の当期利益は1兆1229億円と予想しております。

当社単体および銀行連結対象会社利益等

連結子会社であるUFJ信用保証において引当金の積み増し等により1000億円を超える損失が計上されていることを主因とし、770億円の損失と見込んでおります。

以上より、当社連結当期利益は1兆2000億円と予想しております。

(2) U F J 銀行発足時における合併承継処理

旧東海銀行（合併時消滅会社）の資本勘定 (単位：億円)

	前期末 残高 (*1)	合併日前 決算 (*2)	合併時 処理	承継額
資本金	7,231	-	7,231	-
資本準備金	6,492	-	933	5,559
利益準備金	779	-	-	779
再評価差額金	556	17	-	539
その他の剰余金	322	7,119	6,810	13
その他有価証券評価差額金		962	1,247	285
合計	15,381	8,098	105	7,177

合併時処理の概要 (単位：億円)

	処理額	内訳	説明
資本金	7,231	7,231	承継資本金がゼロのため、資本準備金へ振替
資本準備金	933	7,231	資本金からの振替
		6,810	未処理損失処理のため、その他の剰余金へ振替
		2,171	含み損処理に活用 有価証券評価損：1,452億円 土地含み損：537億円 海外現地法人出資金為替含み損：181億円
		817	合併処理により生じた税効果の認識 旧東海銀行の合併日前決算上否認した税効果の 一部を、合併に伴い新銀行で再認識したもの
その他の剰余金	6,810	6,810	未処理損失処理のため、資本準備金より振替
その他有価証券評価差額金	1,247	962	評価損処理により消滅
		285	評価損処理に伴い評価益発生（税効果勘案後）

(\*1) 旧東海銀行の平成13年3月期末残高（利益処分後）

(\*2) 旧東海銀行の合併日前までの通期決算（平成13年4月1日～平成14年1月14日）

(3) U F J 銀行の資本勘定（見込み）

(単位：億円)

	前期末 残高 (*1)	承継額	取崩額 (*2)	中間配当 支払	当期末決算	当期末残高
資本金	8,436	-	-	-	-	8,436
資本準備金	7,346	5,559	4,450	-	-	8,455
利益準備金	1,066	779	1,846	-	-	-
再評価差額金	1,373	539	-	-	720	1,192
その他の剰余金	1,817	13	6,296	740	2,130	5,257
その他有価証券評価差額金		285	-	-	955	1,240
合計	20,038	7,177	-	740	1,895	24,580

(\*1) 旧三和銀行（合併後存続会社）の平成13年3月期末残高（利益処分後）

(\*2) 平成14年2月開催の臨時株主総会により承認された法定準備金取崩（同年3月に取崩実施済み）

再評価差額金（720）= U F J 銀行東京本部ビル証券化やその他土地等の売却に伴い取崩し（同額の取崩益が発生し、「その他の剰余金」に含まれ計上）

その他の剰余金（2,130）= 当期利益（2,850）+ 再評価差額金取崩額（+720）

その他有価証券評価差額金（1,240）= 減損処理後評価損益（+2,000）の税効果勘案（実効税率分控除）後

(4) 当期末の自己資本比率予想（連結）

(単位：%)

	自己資本比率（連結）
当社	10%台後半
U F J 銀行	10%台半ば
U F J 信託銀行 (*)	10%程度

(\*) U F J 信託銀行の自己資本比率予想（連結）は国際統一基準にて算出した参考値  
国内基準では9%台半ばになると予想しております

以上

当行は投資家の皆様、お客さまなどに対するスピーディな情報公開を目的として、ホームページ上にニュースリリースを掲載しております。

なお、本ニュースリリースには証券取引法第166条に定められた重要事実に当たる情報が含まれる可能性があります。重要事実を含むニュースリリースをご覧になられた方が、その重要事実が証券取引法施行令の規定に従い公開された後12時間以内に、UFJホールディングスの株式などの売買等を行なった場合、いわゆるインサイダー取引規制違反として、証券取引法の規定に接触するおそれがありますのでご注意ください。